

～学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業の取組事例～

「つなげよう つながろう 双葉町」 福島県双葉町の取組



取組の基本理念

○東日本大震災と、それに伴う東京電力福島第一原子力発電所事故により突然の避難を余儀なくされ、町民が全国各地に散り散りとなって丸2年を経過した平成25年度も、前年度に引き続き、町民の避難先各地で社会教育事業を実施した。

○平成25年度は、役場機能を当初の避難先である埼玉県加須市から県内(いわき市)に移したが、町民が全国各地に避難している状況に変わりはなく、「町民の再会の場」、「コミュニティを再生する場」の提供を目的と位置づけ、町民の絆の回復と維持・発展をめざした。

事業概要

○双葉町生活学級:健康、食育、郷土文化、防犯予防等に関する、町民なら誰でも参加できる講座を、県内の避難先6地区並びに県外の避難先2地区で実施。

○双葉町婦人学級:手芸、料理、ボランティア活動等に関する研修会を、町民の自主的な参加・企画・運営により、県内避難先5地区並びに県外避難先2地区で実施。

○放課後学習支援事業(ふたばっ子学習会):いわき市に避難している双葉町の児童・生徒を対象に、学習の場を提供し、学習習慣の定着を促すとともに、子どもたちの落ち着いた生活環境を整備するとともに、地域住民の交流、地域コミュニティの結束の強化を図ることを目的に実施。

今後の取組

○復興や新しいまちづくりに向けての町民からの要望は、「町民の皆に会いたい」、「町民がふれあえる場がほしい」、「双葉の伝統文化を残したい」、「子どもたちの学習サポート体制を整えてほしい」といったものである。長期にわたる避難生活による精神的苦痛や悩みの解消に向け、また、町民相互のさらなる交流や未来の担い手となる児童生徒の学習環境の整備を一層推進するために、関係機関との連携をより密にし、実施場所の拡大や参加者の増加をめざし、町民の絆をより強固にする事業を展開していく。

取組概要

○双葉町生活学級



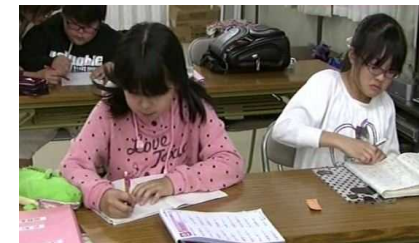
慣れない土地で避難生活する上での健康、安全、防犯等に関する研修会を、県内外の避難先で開催した。熱心に学習に取り組む姿が見られるとともに、町民の交流を活発にしている。

○双葉町婦人学級



双葉町で活動していた時と同じようにとはいかないが、女性のパワーで家庭と地域に元気と明るさを取り戻すため、積極的な活動が展開されている。参加者からは、今後も交流の機会を作ってほしいという声が聞かれた。

○放課後学習支援事業(ふたばっ子学習会)



参加した児童生徒の放課後の学習環境が整備され、学習面だけでなく人間的な成長も見られる。「ふたばっ子学習会のしおり」を作成し、児童生徒の学習支援を行っている。